

青春ライブ授業!

2005.6.12
発行

今、中・高生に語りたいこと

第15回

とき 7月15日(金) 7:00~8:30
場所 北白川幼稚園
演題 『なんで歴史を学ぶか』
講師 某 (山の学校講師・京都大学文学部4回生)



「青春ライブ授業!」のご案内

- ・「山の学校」では、昨年から講師の大学生・大学院生を中心にリレー式の授業を開いたしております。名付けて、「青春ライブ授業!」
- ・中学生・高校生・ご父兄で、無料で参加していただけます。

今大学・大学院でバリバリ勉強にいそんでいる講師の皆さんに、自分の中学生・高校生時代を振り返って頂きながら、「中学・高校時代の勉強は将来こういう点で大切なんだよ!」というメッセージを熱く語って頂きます。このような機会、つまり“向学心に燃える”大学生・大学院生に接するチャンスはめったにないものと思われまます。

スライドや資料、実演などを通し、今取り組んでいる勉強の魅力の中・高生にもわかりやすく伝えてもらうことが授業の中心となりますが、今の勉強を志した動機 恩師・先輩のあの一言、出会った本や一人旅の思い出、etc に加え、中・高生の皆さんが一番知りたい受験勉強のコツや勉強の苦勞を乗り越えた実際のエピソードなどもたっぷりお話し頂きます。

適宜質問タイムを混ぜて進めていきますが、本音トークを引き出し、お話が参加者全体で盛り上がるように、講師以外にも司会・進行のスタッフがスタンバイします。

お子さまにおかれては、日頃、目の前の勉強の意味がなかなか見えない状況にあらうかと思ひます。このリレー式授業に参加されたことを通じて、そうした勉強のもやもやがふっきれて俄然やる気がわいてきた、とか、あの先輩のあの言葉が今の自分を支えている、と言って頂けるような授業となれば何より有り難く存じます。

対象は中学・高校生をメインとしますが、そのご家族(父兄)も聴講可能とさせていただきますので、ご父兄も、どうぞご遠慮なく話の輪の中にご参加ください。むしろ熱意のあるご父兄こそがこの場の影の主役なのかもしれません。つかの間、青春時代にタイムスリップしていただくと同時に、お子さまの未来を考える上での貴重な時間を、ほかならぬお子さまご自身と共有できる点に意義があらうかと存じます。

またご自身から興味をお持ちになって、聴講なさろうというご父兄におかれても、仮にお子さまが小学生であれ、どうぞお連れくださって、ご参加いただければ有り難く存じます。

第10回目(2004年12月18日)
講師:青木信也(滋賀医科大学4回生)
題名:『君の好きなことはなに？
僕の好きなことは出会いです(笑)』



今回の話題は、

- 1.好きなことはなに？
- 2.いやなことはなに？
- 3.どんな仕事を知っている？
- 4.今まで出会った人は何人？

青木先生は、大阪(生まれ) 嵯峨野(小学生) 滋賀(中学・高校生)と引越しを経験され、その都度違う環境や、人との出会いが自分を形作った思い出、また「～になりたい」という憧れの経歴を、たくさん話してもらいました。

少年時代は、まだ医者という道は漠然としていたようで、出会った人の影響から、保育士もいい、看護師もいい...しかしどういいうわけか、また「医者になりたい」思いに戻ってきたという展開でした。その医大に入るまでの勉強のがんばりぶりは、正直な、とても参考になるエピソードだったように思います。本当に話してくださって、ありがとうございました。

最後に、「僕からみんなに伝えたいこと」では、「人生一回性」というメッセージをいただきました。そして...

1.やるならとことん！

中途半端な努力は結果が出なくて一番しんどいから。

2.思い立ったらまず行動！

人の迷惑も意識しよう。良くも悪くも自分に返ってくるから。

「人生は一回きりだから、納得できるよう、あれこれ試してみてください。自分に嘘をつかないように。でも、これだ！と思ったことに熱中しはじめると、つい、周りが見えなくなってしまう、人に迷惑をかけることが多いから、そのことにも気をつけてください」というアドバイスは、なかなか奥深いと思いました。

さて、これは後日談のひとつです。最後に、席を立った生徒の一人が、「帰ったら、英単語を覚えようと思います」と、私に洩らしてくれました。もし自分が英語をも克服したなら、自分の好きな数学にとっても、より大きな可能性が拓かれることを自覚してだと思えます。そうしてじかに講師と向き合っ、英語のことについてたずねていました。

「どんなことにでも、最低限、覚えなないとイケないことはあるよ」

「それが英語では、単語。でも逆に、それをおさえたら、後はできるようになるから。君だったらその力があると思うし、今はまだそこまで行っていないだけだと思う。だからまず、単語から始めてごらん」

その生徒は、まだ自分が英語を苦手かどうか判断を下す前の段階にいるんだと気付いて、自信を取り戻したようでした。

文責 福西亮馬

ライブ授業の感想

青木先生の好きなことは、「出会い」でしたが、あなたの好きなことはずばり何ですか？

天文地学部のみんなで流星群を見ることです。この前のふたご座流星群では、109個見ることができ、火球は9個くらい見ることができました。一番多かったのはしし座流星群で、約200個でした。すごかったです。僕らが観測した中で一番でした。

他にもガンブラを作るのが好きです。 高1

- ・数学の問題を考え、それを解くこと
 - ・遊ぶこと(ゲーム、将棋、友達など)
 - ・ピアノ練習
 - ・人と話すこと
- などです。

とりあえず英単語を覚える努力をしようと思う。(冬の宿題でもあるので) 高1

私は青木先生のライブ授業を聞いて、すごく共感したところがあります。旅先で人と出会うのが好き、ということ。私も同じです。外国の人とか、外国から帰国した人等から、色々な話を聞くことにとっても興味があります。だから多国籍の言葉を話せるようになりたいです。そして、様々な国の人が集まって、食事をしたり、お酒を飲んだりしているところに混じって話すのが夢です。

だから私の好きなことはズバリ「出会い」。一緒です。前から変わりません。 高1

第11回目(2005年1月14日)
 講師：福西亮馬
 題名：『児童書から教わったこと』

児童書から教わったこと それは、思い出すこと

参加者が三々五々集まった頃、静かにピアノの曲が流れ出しました。福西先生による演奏の始まりです。皆の心が静まり、拍手の鳴る中、今度は机いっぱい並べられた児童書のひとつひとつを手にとりながら、現在に至るまでの読書の思い出を順々に語っていかれました。

福西先生は、幼い頃から空想にふけることが大好きな少年でした。絵本や児童書は常に空想の世界に誘う秘密の窓口であり、そこには現実世界で経験できない数多くの出来事や、仲間との出会いがありました。やがて中学に上がると、それらの舞台に出てくる地名を精緻に書き込んだ手製の世界地図を作るなど、児童書に触発された空想の遊びは、とめどなく発展していきました(その地図の実物をご披露頂いたのですが、参加者の誰もが思わず息をのみ、目を疑うほどのできばえでした)。

しかし、高校に上がる頃には、そのような「遊び」への後ろめたさを感じるようになり、この気持ちを払拭するかのよう勉強にも力を入れたそうです。そして、無事に大学入学を果たすと、専門の機械工学の領域はもちろんのこと、「虚学」と呼ばれる学問も含め、一心不乱に勉強に打ち込まれました(ラテン語を習得されたのもこの時期のことです)。やがて、「世の中に役に立つものをつくりたい」という強い気持ちから大学院に進学され、「実学」「制御」の理論の研究に没頭する日々が続きました。

そんなある日、ふと目の前に飛び込んできたのが次の「太陽」と題する詩でした。

おさな子の詩		5才男児
太陽		
先生	太陽ってなんぼある？	
	山科の家にいった時もあつたで、	
	山口の家にいったときかって、	
	北極にも 南極にも あるんやろ、	
先生	屋上にも太陽あるな、	
	先生 見張りしてゝや、	
	僕 運動場にもあるか見てくるからな！	

お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、この詩の中で「太陽ってなんぼある？」と尋ねた園児が福西先生ご本人であり、また、この詩の作者は、幼稚園時代にお世話になった担任の先生なのでした。この詩に出会い、福西先生は大きな感動に包まれます。時空を超えて自らの「思い出」との遭遇を可能にする言葉の力を思い、何より自分の言葉を大切に書き留めて下さった先生への感謝の気持ちに満たされました。このとき心の中で強く決意されたそうです。「自分も子ども

の言葉を大切にできる大人になりたい」と。

この決意は、それまで愛着を覚えながらも、現実からの逃避と受け止めがちであった自らの懐かしい思い出 児童書を読み、空想の世界に遊ぶこと の意義を再確認することにもつながりました。福西先生によれば、「児童書とは、子どもの時に読む本ではなくて、子どもの時を思い出す本」であり、(上に引用した詩のように)「大人の作者が子どもという常に生まれてくる者のために、自らの思い出を書き残した本」のことです。

先生はさらに、ファージョンの作品を紹介しながら、子ども時代の心を「今」に蘇らせる創造の原理が、児童文学を創作する作家の原理と共通することを具体的に指摘していかれました。このとき、表題の「児童書から学んだこと」に関連づけて、次のように締めくくられたのが、たいへん印象深く感じられました。



「私が児童書から学んだことは、過去を思い出すことの意味でした。人はよく、『今を大事に生きなさい』と言いますが、それは、『いつか今を懐かしく思い出せるように生きなさい』ということです。私の場合、たまたま先生が自分の言葉を書き残して下さったのですが、それは運がよいのであって、皆さんの場合、やはり自分で自分の経験を言葉にして書き残してほしいと思います。まずは自分のやりたいことを夢中になってやり続け、一方では言葉にならない言葉も含めて、なんとか文字にして書き残してください。いつかそれを読み返し、懐かしく思い出す自分を想像しながら。思い出は自分を強くし、生きる力の源となると信じます。」

「今を思い出せるように精一杯生きる」 それは簡単なことのように思えますが、実践するのはなかなか難しいことです。人生を主体的に生きない限り、過去を懐かしく思い出すことはできないからです。事実、自分の感情を押し殺し、人まねを繰り返すだけでは、思い出の源となる経験を育てることはできません。

この日「青春ライブ授業！」に参加した生徒たちは、誰もががしーんとしてお話に聞き入っていました。冒頭で流れたピアノのメロディーが、最初から最後まで静かに流れていたと感じられるほどでした。そんな適度に張りつめた空気の中、先生は「今を生きることの意味」について、希望に満ちた小・中・高生に真摯に話して下さいました。それは子どもたちに対する最高のオマージュとして、また、心からの激励として、彼らがいつか将来ふりかえったときに、必ずや心に残る思い出に熟成するものと確信しました。

(文責 山下太郎)

配布資料

第12回目(2005年2月11日)
講師: 廣瀬一隆(滋賀医科大学3回生)
題名: 『考えるってどんなこと?』



昨日は青春ライブ授業で、廣瀬先生をお迎えし、「考えることについて」参加者の皆で意見を出し合いました。という、けっこう月並みなテーマのようですが、ある意味で、哲学の本質につながる大切な問題提起をしていただいたと思います。

このテーマについて、参加者(全員高校生)が自説を述べ、その個々の発言について、廣瀬先生がボールを投げ返し、これを順繰りに繰り返しながら、全体で議論の中身を深めていくというスタイルでした。

ときおり、部屋に掛かった時計の針の音が聞こえるくらい静かな沈黙の中、一生懸命に自分の言葉を探り当てようとともがく生徒の知的営みが頼もしく、応援したい気持ちにかられました。廣瀬先生は、けっしてせかすことなく、一人一人に、適切な合いの手を入れながら、議論を活気付けておられました。(ちょうど、テニスのコーチがベースラインに並んだ生徒にタイミングよくボール出しをするように)。

この日は、結論が出ない議論が2時間とぎれずに続きました。その意味で、実り多い授業時間だったと思います。講師の廣瀬先生、授業に参加してくれた生徒のみなさん、ご父兄のみなさんには、心より感謝します。

(文責 山下太郎)

こんにちは、3月11日に青春ライブでお話させて頂くことになっている廣瀬です。以前にも、青春ライブでお話したのですが覚えてもらっているでしょうか？

今回も前回に引き続き「考えるってどんなこと？」をテーマに、みなさんとさまざまな議論、話し合いができればと思っています。議論といっても、とくに難しく考える必要はありません。自分の考えを、相手にとってわかりやすく、丁寧に言うことを心がければ、それだけで十分です。

とはいえ、いきなり議論を始めることには難しいところもあると思いますので、議論の種子となる、テーマをあらかじめこちらから提案しておこうと思います。以下のテーマについて自由に意見を書いてください。

まず、ひとつめ。自分といつも意見の合わない人っていますよね？ 誰も一人や二人、そういう苦手な人っているものです。では、どうしてその人とは意見が合わないのでしょうか？ その原因を、自分でじっくり考えて、文章にしてみてください。

普段普通に生活しているだけでも、意見のぶつかり合いは起こるものですよね。みなさんは、友人と意見がぶつかったときにはどうしていますか？ 自分の経験にそって書いてみてください。いつもは、こういう風にしてしまっけど、本当はこうしたほうがいいんだらうな、という書き方でもいいですよ。できるだけ細かく、自分の体験とそれにもとずく自分の考えを書いてくれるとうれしいです。

さて、意見の異なる人とどのようにして接するか、というテーマでふたつの文章を書いてもらったと思いますが、ここで日常生活から、少し遠くへ目をやってみます。世界にはさまざまな価値観を持った人たちが暮らしています。もしも、あなたが慣習が日本とまったく異なる地域に行くと、その習慣に従うように求められたとしたら、どうしますか？ここでは、話を具体的にするために、インドにいてその習慣(牛を崇拜すること、川で沐浴をかかさないとこと)に従うことを求められた場合、としましょう。

以上三つのテーマについてみなさんの意見を教えてください。どんなに常識に反しているように思えるものでも、反対にありきたりに思えるものでも、まったく構いません。ただ、正直に自分の考えを書いてくれれば、それが価値ある文章になります。

また、みなさんの方から何か議論したいテーマがあれば書いてみてください。それもみんなで話し合ってみましょう。それでは、みなさんのご協力をお願いします！

